

【第1回】石巻市震災伝承検討委員会議事要旨

- 開催日時 平成25年11月27日（水） 午後1時～午後3時
- 開催場所 石巻市役所5階 市民活動ルームA・B
- 議事次第
 - 1 開 会
 - 2 あいさつ（市長）
 - 3 委嘱状交付及び委員紹介
 - 4 委員長及び副委員長選出
 - 5 石巻市震災伝承検討委員会の運営について
 - 6 議 事
 - (1) 震災伝承に係る本市の方針について
 - (2) 震災伝承に係る各被災地の現状及び課題について
 - (3) 震災伝承に係る市民意見アンケート（案）について
 - (4) 今後のスケジュールについて
 - (5) 意見交換
 - 7 その他
 - 8 閉 会

◆ 議事要旨

- ・ 市長あいさつ（亀山市長）
- ・ 委嘱状交付：市長から各委員へ
- ・ 委員長及び副委員長選出
委員の互選により、委員長に 平川 新 委員、副委員長に 谷川 正明 委員が選出される。
- ・ 石巻市震災伝承検討委員会の運営について
会議を公開で行うこと等を確認。追加資料（県の方針、復興庁支援内容）について説明。
- ・ 議事：平川委員長が議事進行

(1) 震災伝承に係る本市の方針について

(2) 震災伝承に係る各被災地の現状及び課題について

石巻市の震災復興基本計画に位置付けられる「震災伝承」の取組、及び各被災地における震災遺構の候補施設等の現状と課題について事務局から説明を行った後、委員による意見交換を行った。

（主な意見）

- ・ 震災遺構としての保存と文化財としての保存は、どういう関係になっているのか。
- ・ 文化財として市が支援していくものを震災遺構として捉えることも可能。
- ・ 検討委員会では、復興庁の支援が受けられる1市町村1箇所の震災遺構を決めるのでは

なく、どれを震災遺構として残すべきかという視点で検討する。

- ・震災前の状況を確認できる工夫が必要。
- ・震災遺構に学問的定義があるわけではないので、議論しながら考えていきたい。
- ・震災遺構を何のために残すのか、テーマ性や意味づけなどコンセプトが大事。
- ・資料にあるもの以外に震災遺構の候補を挙げて頂いても良い。アンケートでも出てくる可能性もある。
- ・津波の高さを確認できる表示等も必要。

(3) 震災伝承に係る市民意見アンケート（案）について

市民 2,000 人を対象に実施予定の震災伝承アンケートについて、設問内容等の考え方を事務局から説明を行い、対象者及び設問内容についての意見交換を行った。

（主な意見）

- ・コスト面の設問も入れた内容とすべき。
- ・候補としてあげている震災遺構には、いつ頃建設されたかなどの説明文の表示を。
- ・アンケート対象に中高生を入れるべき。
- ・住宅再建の見通しがついている人とそうでない人が分かる設問を。
- ・ドームで覆うなどの完全保存と、そのままにして将来的な風化は仕方ないとする保存手法もある。
- ・コストについては、今の段階では設問に入れなくてもよいのではないかと。どれが大事かを聞いて、コストについては次のステップで。
- ・今後、コストや財政負担についても検討するが、現段階では広く候補を聞くということに重点を置いたらどうか。
- ・遺構の候補は示さず、自由記述で。ただし、例示として 3.11 震災伝承研究会の候補リストを参考に示したらどうか。
- ・新聞記事等で広くアンケートの周知を。
- ・遺構というハードだけでなく、伝承することを考え「ソフト」の設問も必要。
- ・後世に伝えるメッセージのようなものを記載する自由記入欄があっても良い。

(4) 今後のスケジュールについて

委員会の開催スケジュールと検討内容、また、先進地視察の候補地等について事務局から説明を行い、意見交換を行った。

（主な意見）

- ・津波関係の先進被災地を見ることも必要では。
- ・先進市視察は、なぜ保存の対象としたのか、どういう方法で保存をしているのかを知ることが必要だが、地域住民が保存についてどう考えていたのかなどの視点が重要。

- ・ヴァーチャル、3Dで見せるという方法もある。東京江戸博物館での展示なども検討しては。
- ・スケジュールは検討状況等により変更していく。

(5) 意見交換

(主な意見)

- ・市民の生の声を聞く場を設けてはどうか。
- ・状況を見ながら、必要に応じて検討する。
- ・復興交付金は現行平成27年度までだが、平成28年度以降も支援が受けられるよう、県としても要望を行う。
- ・最大の被災地である石巻の特徴を踏まえた伝え方を検討することが重要。
- ・なぜ石巻ではそれを残すとかというストーリーをしっかりと検討する必要がある。

以上